



たてやま おらがんまつち



館山市大井地区 たぢからおひんじや 手力雄神社

地域の紹介



大井地区は九重地区の東端に位置し国道128号線を挟む丘陵地の麓に広がります。御狩谷、角田、赤立、東根、西根の五つの集落からなる、およそ五十戸ほどの地域です。地域内には古代の横穴古墳群、灯籠塚、中世大井氏居城である大井城跡など、古代からの豪族の拠点であったと考えられる数々の史跡が残されています。また、平安時代の地名としてある「安房国安房郡大井郷」は当地周辺と考えられています。

大井地区は九重地区の東端に位置し国道128号線を挟む丘陵地の麓に広がります。御狩谷、角田、赤立、東根、西根の五つの集落からなる、およそ五十戸ほどの地域です。地域内には古代の横穴古墳群、灯籠塚、中世大井氏居城である大井城跡など、古代からの豪族の拠点であったと考えられる数々の史跡が残されています。また、平安時代の地名としてある「安房国安房郡大井郷」は当地周辺と考えられています。

自慢の神輿

大井地区手力雄神社の神輿は、安房国司祭やわたんまち)に出祭しています。美しい朱と黒の漆に染められ、凝った細工の枘組や所狭しとばかりに付けられた彫金の数々、そしてそれらと調和した見事な彫刻が生き生きと配されています。

平成十五年の大改修の際、この彫刻の裏に「彫工伊八 武志伊八郎信由 長狭打墨住」という墨書き銘が発見されました。柱四隅の狛犬八体と戸脇の龍八体の彫刻がそれです。そして更に、柱隠しの龍と安房国司祭で御仮屋に納めたときだけ神輿軒面と野筋につけられる龍の彫刻は、房州後藤流・初代後藤義光の手によるものです。

「波の伊八」と「初代義光」

現在、江戸時代の頃から始まったとされる苗木生産から発展した造園業や手入れの行きとどいた梨畑、正月用の千両の栽培をしている竹小屋、色とりどりの花卉栽培などの特色ある農業が行われています。

馳川盛義氏による史料「大井之誇」の序文に書かれている「大井に生まれたものは大井を知らなければならぬ。故郷を知って故郷を守るのは愛国の至情である」という言葉のとおり、先人たちの地域への熱い思いが守り継がれ連綿と息づく「誇り」ある地域です。



「波の伊八」こと武志伊八郎信由の彫刻



房州後藤流・初代後藤義光の彫刻

- 地区名：大井 ●神社名：手力雄神社 ●屋根：述屋根 ●葺手：普及型 ●造り：漆塗り
- 露盤：枘形 ●極：極 ●胴の造り：二重勾欄 ●枘組：四行 ●手：屏 ●四方扉
- 鳥居：明神鳥居 ●台輪：普及型 ●台輪寸法：四尺
- 彫刻：武志伊八郎信由、後藤利兵衛、後藤義光 ●観処：武志伊八郎と初代後藤義光の彫刻など